

# ザ・シンポジウムみなと in 札幌

一般社団法人寒地港湾技術研究センター

「ザ・シンポジウムみなと」は、地域の発展の核となる港湾について、様々な立場から見た北海道港湾の将来の方向に関する意見を紹介していただき、道民の方々に港湾の重要性や必要性を理解してもらおうとともに、広く港湾をPRすることを目的としてこれまで道内主要港湾所在地において開催してきました。平成26年度の「ザ・シンポジウムみなと」は、北海道の魅力ある自然環境等の観光資源を生かして、寄港隻数が年々伸びているクルーズ観光をテーマに、北海道の港湾や地域における取り組み戦略を考えるとして、11月20日（木）札幌市（札幌全日空ホテル）において、全道各地から約250名の方々が参加し開催されました。

はじめに、主催者として「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の水野委員長からご挨拶がありました。



開会挨拶 水野委員長

基調講演は、(株)カーニバル・ジャパン 代表取締役の木島榮子氏が「プリンセス・クルーズから見た今後のクルーズ振興」と題して、米国プリンセスクルーズ社の戦略や、本年実施した北海道一周クルーズの実績等をご紹介いただき、北海道の強みや課題を踏まえた今後のクルーズ振興への助言等についてご講演いただきました。



基調講演 木島榮子氏

休憩を挟んだ後のパネルディスカッションでは、室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 准教授の古屋温美氏がコーディネーターを務め、パネリストとして網走市長の水谷 洋一氏、釧路港おもてなし倶楽部

副実行委員長の金子ゆかり氏、富山県土木部港湾課 環日本海拠点港推進班班長の太田浩男氏、大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授の赤井伸郎氏、(株)海事プレス社横浜支局長の齊藤正幸氏の6名の方が参加され、「北海道のみなと・地域のクルーズ振興戦略を考える」をテーマに討論がなされました。



パネルディスカッション

それぞれのお立場から、水谷市長からは「今年のプリンセスクルーズ等寄港の成果と今後の取組戦略について」、金子委員長からは「今年のプリンセスクルーズ等寄港への対応と今後の取組について」、太田班長からは「環日本海クルーズ推進協議会での北海道との連携戦略等について」、赤井教授からは「クルーズ船寄港による地域活性化の戦略について」、赤井教授からは「クルーズ船寄港による地域活性化の戦略について」、齊藤支局長からは「クルーズに係る動向を踏まえた北海道における振興戦略について」のご発言をいただきました。

最後に、古屋コーディネーターから「基調講演及びパネラーの発言と地域活性化の観点を踏まえ、機会があれば道民自らクルーズ体験をすることが大事、各船社への取組（ポートセールス）をすぐ明日から始めること、各地域・機関がそれぞれその役割を果たしていくことが求められる。」と述べられ、シンポジウムが終了しました。

なお、12月11日から動画をHPにて公開しています。



全体風景